

下水サーベイランスについて

1 下水サーベイランス（下水疫学調査）とは

新型コロナウイルス及びインフルエンザウイルスの感染者は、症状の有無に関わらず糞便や唾液中にウイルス RNA（遺伝物質）を排出



下水中のウイルスの検査・監視により、地域の感染状況を把握可能



受診行動や検査数の影響を受けることなく、無症状感染者を含めた感染状況を反映する客観的指標としての活用が期待



イメージ図
(北大・北島正章准教授提供)

2 調査概要

①調査期間

新型コロナウイルス：令和3年2月～、インフルエンザウイルス：令和4年10月～

②対象施設

創成川水再生プラザ、豊平川水再生プラザ、新川水再生プラザ
(3施設の処理人口は約100万人で、札幌市全体の52%をカバー)

③調査内容

北海道大学の協力のもと、週3回、流入下水中のウイルス RNA 濃度を測定

3 調査結果

下水中のウイルス濃度と新規陽性者数の挙動が一致 ⇒ 下水から精度よく感染状況を把握

令和4年8月から調査結果を札幌市ホームページで公表し、市民への情報提供・注意喚起に活用

(<https://www.city.sapporo.jp/gesui/surveillance.html>)

